

平成 21 (2009) 年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書記載項目

提出日：平成 22 年 3 月 16 日

氏名：池内千草

所属団体：ワールド・ビジョン・ジャパン

受入先機関名(所在国)：ワールド・ビジョン・アジア太平洋地域事務所

研修期間(全体)：2009 年 9 月 6 日 ~ 2010 年 3 月 8 日

研修テーマ

ワールド・ビジョン アジア太平洋地域事務所が実施する「人身取引とアドボカシーに係る地域プロジェクト(拡大メコン地域)」に関与することにより、人身取引の分野における事業の運営管理、国境をまたぐ事業の企画・形成・実施・評価、及び効果的なアドボカシー活動のあり方について、実践的知識を習得する。

全体研修目標：

- ・ 事業対象地における人身取引の問題の所在を知る
- ・ 事業対象地域における事業内容を踏まえ、メコン拡大地域におけるアドボカシーの効果的な実践方法を学ぶ
- ・ アドボカシー地域プロジェクトの第 2 フェーズ企画・立案への効果的な提言を行う

具体的な研修内容：

- ・ 事業地の活動の視察(カンボジア、中国、タイ)
- ・ 事業地での活動のブリーフィング(カンボジア、中国、タイ、ミャンマー、ラオス)
- ・ 地域アドボカシー・プロジェクトの運営・監理の補助
- ・ 現地で開催された、ワーキング・グループやワーク・ショップへの参加
- ・ UN 機関や JICA、現地(国際) NGO など、協力機関との合同会議への参加

研修の成果：

(目標に対し達成できなかった内容がある場合は、その理由とあわせて報告してください)

<問題の所在について>

- ・ 中国でのワーク・ショップ準備の際に作成した、人身取引問題の Problem Tree (下記添付)

- ・ 11 月にバンコクで行われた、人身取引のワーキング・グループでは、特に現在注目されている問題について、国連機関などで取り組んでいる専門家などから、最新の状況についての報告だった。

人身取引の問題は、性的搾取の問題から、出稼ぎ問題へ、そして現在は労働搾取の問題へと間口が広がっており、同時に女性や子どもが被害者の中心だったのが、今は男性の被害者も急増している。WVでは、特に海産物業（エビ加工工場）などで行われている労働搾取に焦点を充て、今後、広くキャンペーンを行うことになっている。また、人身取引を誘引するものとして、現在特に重要だと考えられているのは、Statelessness（出生証明など、身分を保証する法的な書類のない状態）の問題で、今後、アドボカシー事業において、広くその重要性を啓発していくとともに、今後、事業の中でも対応を考えていくことになっている。ワーキング・グループの報告書添付（ドラフト）

<アドボカシーの効果的な実践方法>

- ・ 一般的に、アドボカシーを行う場合、その根拠となるしっかりとしたデータを取ることが必須である。しっかりとした調査を行い、証拠を集めることが重要。そして、その集めた情報を元に、法律とその施行状況のギャップ、既存の法律ではカバーされない利益グループなどを分析し、アドボカシーのターゲットと、メッセージを決定する。また、活動の前後で、対象となる人々の問題に対する「意識」と「行動」がどのように変わったのかを調査することも、重要である。
- ・ 政府へのアドボカシーにおいては、同様の分野で活動を行う、他団体・他機関との連携が非常に大切である。その際、政府の活動計画に対して、各団体が自分たちの強みを活かして関与することが効果的である。
- ・ 政府や政府系組織へのアドボカシーの際、関係性の構築をすることが非常に大事である。丁寧に、密に連絡をとることが、関係性の構築には不可欠である。
- ・ 中国で行われた「人身取引とアドボカシー・ワークショップ」を通して、招聘者の選択が非常に大事であることが分かった。中国では、北京（中央）からの指示は、地方において絶対服従という不文律があるため、中国でのワーク・ショップのパネルは、北京から代表者を招聘することを目標に調整が進められ、それがワーク・ショップ成功の大きな鍵となった。
- ・ ワーク・ショップの中で、中国政府の役人が、「中国がこの人身取引の問題に取り組むのは、国際社会の一員としての責務である」という発言を行ったが、このメッセージは、今後日本における啓発活動でも重要なキーワードになると思う。
- ・ 上記で学んだことを基に、タイ、ミャンマー、カンボジアの人身取引担当（もしくは担当予定）のJICA 専門家と連絡を密にとり、関係構築を図った。これは特に、人身取引問題の全体像、現地での活動状況などを把握したことによって、日本が国全体で今後この問題により深く関与する必要があるのではないかと感じ、そのためには、事業への金銭的支援だけではなく、政府への働きかけや、日本の国内での啓発活動も重要になると感じたためであった。
- ・ その結果、一番の成果は、JICA ミャンマー事務所で現在形成中の人身取引案件に、非常に大きなインプットができたことだと思う。1月訪問時、JICA ミャンマー事務所では具体的な候補案件がまだ固まっておらず、当地で長く活動する、WVのこれまでの活動経験の中から、何か具体的な提案があったらお願いしたいと言われていた。現地のスタッフとの打合せの末、社会保障省の職員に対する能力強化のプロジェクトという案が出て来、具体的な事例とともにJICA 事務所にご提案をした。しばらく後に連絡を頂き、こちらからの提案に基づいて、案件形成を行っていると同った。人身取引のアドボカシー研修としては、一番の成果が出せたと考えている。

<第2フェーズ企画・立案への効果的な提言>

- ・ 第2フェーズへの具体的な提言に関しては、地域アドボカシー事業の実施期間に変更があり、第2フェーズを立ち上げる代わりに、第1フェーズを2011年9月まで延長することになったため、今回直接的な提言は行わなかった。しかし、WVJは今後3年間、地域プロジェクトとして運営されている2つのプロジェクトを機軸に、GMS諸国（特にタイとカンボジア）で人身取引案件へ2億円の支援をすることが決まっており、その事業形成を担当することになっている。現行の2事業では、カバーできていない分野、地域などを中心に、研修で学んだ現地の状況、事業の問題点などを踏まえて、効果的な事業形成を行いたいと考えている。

本研修成果の自団体の組織強化や活動の発展への活用方針、方法：

- ・ 現在、WVJでは、ミャンマー・カンボジア・ベトナムで人身取引のアドボカシーの事業を支援しているが、今後効果的なインプットを行うことができる。
- ・ WVJは今後3年間、GMS諸国において2億円の予算で人身取引案件を支援することが決まっており、帰国後すぐ、アジア太平洋地域事務所の担当者と今後の支援の方向性についてやり取りを始めている。
- ・ 3月30日に事務所内部で、新入職員を対象に、人身取引問題とGMS諸国における取り組みについて話をする事になっている。
- ・ 具体的な日程は、まだ未定だが、4月以降のワールド・ビジョン・カフェ（WVJの活動のご支援者等を対象に行う活動報告会）で、研修の成果を発表することになっている。
- ・ 10月頃に、ワールド・ビジョンのアジア地域にある事務所（特にファンド・レージングを行っている事務所）の5つ事務所の担当者に対して、人身取引の問題の啓発と、今後の資金援助の方向性を計画するためのワーク・ショップを行う事になっている。

以上